



の資料をご覧くださいながらお願いします。

まず「選定資料」をご覧ください。全ての教科書の選定に当たっては、5つの観点で研究されております。その観点について、国語の資料を使用して確認しますので、国語の資料をご覧ください。左の列がその観点になっております。

1つ目は「学習指導要領との関連」、2つ目は「あいちの教育の基本理念」との関連、3つ目は「内容」で「内容の選択」「内容の程度」「内容の構成」、4つめは「表記・表現及び使用上の便宜等」、5つめは「印刷・造本等」となっており、教科書ごとに研究が進められ、このようにまとめられております。

もう1つの資料は、「選定理由書」です。先の協議会で選定されました教科書について、5つの観点からその理由が示されております。その中で、特に決め手となったもの、特徴的なものをピックアップし、説明をさせていただきます。

国語は、4社の教科書について、協議されました。その結果「光村図書」が選定されました。選定の決め手となったのは、「内容の選択」「内容の程度」です。どの出版社も、幅広い分野から内容がバランス良く配置され、主体的に学習できるよう工夫されていますが、特に「光村図書」は、学習目標やねらいに沿った教材が選択されており、身に付けさせたい力が明確です。実生活や将来に生きる情報活用の方法を学ぶことのできる多様な教材が選択されており、また、言語活動を通して、思考力・判断力・表現力等が育めるように工夫されています。また、どの教科書も、生徒の発達段階に配慮されており、QRコンテンツ、二次元コンテンツを充実させ、発展的学習、個に応じた学習を支えるよう配慮されています。特に「光村図書」は、各教材が系統的・段階的に位置づけられており、3年間を通して習得と活用を繰り返しながら、目指す資質・能力が高まるよう工夫されており、十分に配慮されています。

次に、「書写」についてです。4社の教科書について、協議されました。その結果「教育出版」が選定されました。選定の決め手となったのは、「内容の構成」です。どの教科書においても、毛筆で学習した内容を硬筆で生かせるように構成されていました。また、各社、学習の進め方や学習のポイントを示すなどの工夫がされていました。特に「教育出版」は、生徒自ら学習手順がわかるように、学習ステップがわかるアイコンを提示しています。「試し書き」があることで、学習目標と照らし合わせて自らの課題が設定しやすくなっています。「学習を生かして書く」「学校生活に生かして書く」では、習得した書写の力を、教科横断的な学習活動や日常生活に活用できる例がたくさん挙げられており、十分に配慮されています。

次に、「社会（地理的分野）」についてです。4社の教科書について、協議されました。その結果「東京書籍」が選定されました。選定の決め手となったのは、「内容の構成」です。各社、新しい学習指導要領に沿った深い学びにつながる補充・発展的な学習のまとめのページを設けています。特に「東京書籍」は、導入からまとめまでの一連の流れが単元だけでなく章を通して作成されており、生徒が主体的に社会的な事象を多面的・多角的に捉え、対話的な学習を促すように工夫が多く見られます。また、各社とも生徒の興味・関心を高める写真や資料を適切かつ効果的に配置し、よく工夫されていますが、使用される写真の撮影年代では、「東京書籍」は新しい資料を多く使用しており、また撮影年代も明確に掲示され、地形図もシンプルな色合いで見やすいよう配慮がされています。

次に、「社会（歴史的分野）」についてです。9社の教科書について、協議されました。その結果「東京書籍」が選定されました。選定の決め手となったのは、「内容の選択」「表記・表現及び使用上の便宜等」です。どの出版社も、基礎的・基本的な知識や概念、技能の定着や深い学びに対応できるように意図して編集されていますが、特に「東京書籍」は、思考力・判断力・表現力を生かした活動を組み込んでいます。「調査活動の技能」育成の点では、考察や発表の方法についても具体的に示されており、取り組みやすい内容になっています。また、各社、漢字や仮名遣いが適切でわかりやすい表記がされています。この中で、「東京書籍」と「日本文教出版」の各ページにある「年表」の表記は見やすさの点でも特に優れています。

次に、「社会（公民的分野）」についてです。6社の教科書について、協議されました。その結

果「東京書籍」が選定されました。選定の決め手となったのは、「内容の程度」「内容の構成」です。各社とも、幅広い視野から社会的事象の意味を理解し、考察できるように、分かりやすい文章で記述されています。特に「東京書籍」は、新聞記事の資料数が相対的に多く、身近な出来事と結び付け、社会の変化に対応した内容となるよう工夫しています。また、各社、言語活動の充実を図る学習や、補充的・発展的な学習を適切に配列しており、各時間の「学習課題」と「振り返りの問い」を一体として掲載する形は、多くの教科書で見られます。特に「東京書籍」では、単元を貫く学習課題を立てて、1時間の学習課題で学習を深め、節ごとの課題に取り組むという課題解決学習ができるよう工夫されています。

次に、「地図」についてです。2社の教科書について、協議されました。その結果「帝国書院」が選定されました。選定の決め手となったのは、「内容の構成」「表記・表現及び使用上の便宜等」です。両社とも、世界は州、日本は地方ごとに一般図や、各種資料を適切に配列し、地域的特色を捉えやすくなるよう構成されています。「帝国書院」は、「地図で考える持続可能な社会」を特設し、地図や資料を関連付けて包摂的・横断的に学びに取り組むことができるように工夫されています。両社とも、記号・用語等の表記が統一され、地名にルビが振られています。学習上重要な地名には、欧文が併記され、視覚的にとらえやすくなるように大きく表示されています。また、タイトルやページ番号、地図資料の配色等の統一が図られています。「帝国書院」は、すべての地図に凡例、陸高と水深が記載されています。また、地域の特色が具体的に読み取れるように、凡例の記載内容を地域によって変えています。さらに、目次のページにも、歴史の「歴」、公民の「公」等のマークが付けられており、他分野の学習に活用しやすくなるように十分に工夫されています。

次に、「数学」についてです。7社の教科書について、協議されました。その結果「啓林館」が選定されました。選定の決め手となったのは、「愛知の教育の基本理念との関連」「内容の選択」「内容の構成」です。「啓林館」は、対話による学習を大切にし、協働的な学びを通して友達の考えのよさを知り自分の考えを深められるように編集されています。さらにSDGsなどの今日的な課題や、日常生活の中にある場面など、実社会と関連する題材を取り上げることで、学んだことを生かし主体的に学習を進め、その単元で学んだ数学のよさを実感できるようによく工夫されています。また、「ひろげよう」で、既習事項をもとにして、生徒が課題を発見し、答えを予想するなど、真理を求める態度を養えるようにしたり、問題解決の場面で数学的な見方・考え方が生かされる様子を顕在化したりすることで、資質・能力が育成できるように工夫されています。さらに、「学習のとびら」で身近な題材を取り上げたり、「話し合おう」で今後の学習に見通しをもたせたりするなど、主体的・対話的に学習に取り組める内容が選択されています。そして問題を解決したあとにその結果を振り返って考えたり、発展的に考えたりする場面を設定できるようにすることで、数学が生活や社会で有用に働くことを実感できるようにするなど工夫がなされています。

次に、「理科」についてです。5社の教科書について、協議されました。その結果「教育出版」が選定されました。選定の決め手となったのは、「内容の構成」「表記・表現及び使用上の便宜等」です。どの出版社も探求の仕方を身に付けられるよう工夫されていますが、特に「教育出版」は、各単元および、各章の初めに既習事項とのつながりを示し、「探究の進め方」を折り込みページで確認でき、育てたい資質・能力のつながりを意識した構成・配列になっています。また、巻頭に「探究の進め方」を配置し、探究学習の過程が分かりやすく示されているとともに、単元ごとに、疑問から課題を設定して探究の過程を繰り返し取り組める工夫がされています。また、観察・実験の進め方について、どの教科書も安全に行うための注意事項を分かりやすく掲載し、安全面に配慮されています。特に、「教育出版」は、実験の説明で、「注意」「禁止」と見出しを目立つように配置し注意喚起しており、安全面によく配慮されています。

次に、「音楽」についてです。2社の教科書について、協議されました。その結果「教育出版」が選定されました。選定の決め手となったのは、「内容の程度」「内容の構成」です。

両社とも、主体的・対話的で深い学びを導く工夫がなされていますが、特に「教育出版」では、

「話し合おう」で、言語活動に重点を置き、音楽的な見方・考え方を働かせて主体的・対話的に学び合うことができるよう工夫されています。さらに、「Sing! Sing!」や「Let's Try!」で、学習に必要な知識及び技能を習得し、WEB上の動画等を活用し、思いや意図をもって表現するために必要な技能が無理なく身につくよう配慮されています。WEB上の資料には、学習に役立つ出版社独自の情報や演奏動画などの音源も大変充実しており、楽曲について視覚的にも捉えやすく個別最適な学びに向けた工夫がなされています。

音楽〈器楽〉についても、両社とも、明確な学習のめあてのもと、生徒の興味関心に配慮した教材が豊富に用意されており、主体的な学習が引き出されるよう扱いが工夫されていますが、特に「教育出版」では、和楽器と諸外国の楽器について、音色や音の出る仕組み等を比較したり、楽器の構造や歴史を調べたりするなど、その共通性と固有性を考えさせ、世界に視野を広げることができるよう一層の工夫がされています。また、他者と協働しながら表現を工夫したり、音楽や演奏のよさや価値を考えたりする学習を展開するため、比較し整理したことをもとに「話し合おう」で共通点や相違点の意見交流を行うなど言語活動が充実するよう配慮され、より深い学びに導いています。技能の習得においては、「まなびリンク」で、個別に模範演奏や演奏の仕方など出版社独自の豊富な動画を見ることができるため、個々の技量に応じて、主体的に段階的に技能を身に付けられるよう工夫されています。

次に、「美術」についてです。3社の教科書について、協議されました。その結果「日本文教出版」が選定されました。選定の決め手となったのは、「内容の構成」です。3社とも、国内外の文化や特色のある作品を掲載することで、美術科の学習が日常生活や社会とのつながりを示す編集になっています。また、他教科との関連についても、学習が深められるように配慮されています。特に「日本文教出版」は、表現と鑑賞の関連を重視した構成で、第1学年では基礎・基本を重視し、第2・3学年では、文化の継承や現代作品を主題に扱う等、より社会的な視点で学べる系統的かつ多様な題材の配列となっており、他社にはない特徴となっています。また、全ての題材に「鑑賞の入り口」「学びのはじめに」が記載されており、主体的に学ぶ意欲を高められる構成となっています。さらに、図版や生徒作品に説明文や作者の言葉を添えて掲載するとともに、題材ごとの造形的な視点を提示することで、効果的に鑑賞できるように工夫されています。

次に、「技術・家庭」についてです。3社の教科書について、協議されました。その結果「東京書籍」が選定されました。選定の決め手となったのは、「愛知の教育の基本理念との関連」「内容の選択」「表記・表現及び使用上の便宜等」です。どの出版社も、多種多様な職業人の写真やメッセージがまとめられており、社会人・職業人として自立に向けたキャリア教育が推進できるよう配慮されています。特に「東京書籍」では、技術分野は、「技術の匠」、家庭分野は、「プロに聞く!」において、社会で活躍している技術に携わる人々に着目し、「ふるさとあいちの文化・風土」を想起させる産業教育の発展を紹介し、豊かな文化を創造できるようにしています。また、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うようにも配慮され、職業観・勤労観を育むとともに、学習をさらに深めたり、調べたりして、将来につなげられるよう工夫されています。また、3社とも、具体的な実践例が多数用意され、実践的・体験的な学習を充実させられるよう配慮されています。特に「東京書籍」は、問題解決的な学習過程を重視し、問題解決のプロセスを「Warm up」で丁寧に説明するとともに、「生活の課題と実践」で、より具体的に解説し、生活の中で自ら問題解決に取り組むことができるように工夫されていました。さらに、「東京書籍」のみ、「学習のまとめ」で、「学習したことを確かめよう」と重要語句が関連ページとともに示されており、大切な用語の確認や振り返りに活用しやすいように工夫されています。また、多くのページに「せいかつメモ」として関連する詳しい説明が示され、生徒の興味関心を深められるよう工夫されています。

次に、「保健体育」についてです。4社の教科書について、協議されました。その結果「東京書籍」が選定されました。選定の決め手となったのは、「内容の選択」「内容の程度」です。どの出版社も、図表、イラスト、写真などが多用されており、生徒が興味・関心をもって主体的に学習し、課題解決に見通しがもてるように工夫されています。ただ、大日本図書については、写真や統計・資料のデータがやや古く、新しい情報の選択という点で、物足りなさを感じます。また、

どの出版社も、課題解決的な学習、習得した知識・技能を活用する学習が位置づけられており、生徒たちにとって主体的・対話的に取り組みやすい内容となっています。学習したことを実生活に結びつけながら、学びを生かすことができるよう工夫されています。特に「東京書籍」は、導入では課題の発見につなげることができるような多様な活動の工夫が施され、主活動においては、多様な活動を通して、習得した知識・技能を活用しながら思考を深めることができるような工夫が施されています。また、多数のデジタルコンテンツが二次元コードから展開できるようになっており、解説動画・実験動画・実習動画・アニメーション動画、CGシミュレーションなどに加え、他教科や別単元の関連資料ページ、外部HP、資料・図鑑、学びを整理する思考ツールやワークシート、各章末のキーワード解説・章末問題など、多種多様なコンテンツが最適な箇所に位置づけられています。

次に、「英語」についてです。6社の教科書について、協議されました。その結果「東京書籍」が選定されました。選定の決め手となったのは、「内容の程度」「内容の構成」です。どの出版社も、5領域のバランスの取れた言語活動が、主体的・対話的で深い学びを進めることができるよう配列されています。特に「東京書籍」は、各見開きパート末の「Activity」で言語活動を積み上げ、単元末の「Unit Activity」でまとめるよう構成されている。また、各「Unit」「Real Life English」「Stage Activity」で知識・技能の習得と活用を繰り返しながら主体的・対話的で深い学びを進めることができるよう設定されており、内容量についても適切です。さらに、「Grammar for Communication」で文法事項の定着を図り、三つの「Stage Activity」を通して、段階的に既習の言語材料を活用する発展的な学習が適切に設定されているなど、内容の程度についても十分に配慮されています。

次に、「道徳」についてです。7社の教科書について、協議されました。その結果「日本文教出版」が選定されました。選定の決め手となったのは、「内容の選択」「内容の構成」です。どの出版社も、工夫してユニットが組まれており様々なテーマについて学習できるようになっています。特に「教育出版」と「日本文教出版」は、「いじめ」に真摯に向き合うとともに、現代的な諸課題解決の意欲向上に重点を置いています。中でも「日本文教出版」では3年間を通して、いじめに正面から向き合えるようユニットが生まれ、より深く、多面的・多角的に考えられるよう工夫されています。さらに「日本文教出版」は、いくつかの教材を学習した後、「学びを深めよう」で、多面的・多角的な考え方ができる「学びのヒント」を記載し、多様な考えが深まるようヒントとして思考ツールを紹介し、新たな気づきを得て主体的・対話的に話し合えるよう配慮されています。また、各教材末に中心発問例の「考えてみよう」と、新たな考えや今後大切にしたいことなど、自分の生き方にプラスしたいことを考える「自分にプラスワン」の発問例が記載されており、問題解決に向けた議論ができ、考えを深めやすくなるよう工夫されています。教材の中心発問からの学習を受け、プラスワンで自分事として考えられるようになっている発問例が記載されていることで、授業者が授業を組み立てる際に有効であると考えられます。

以上、それぞれの教科書の選定の理由を説明させていただきました。ご審議をよろしくお願いたします。

**大村委員：**国語について、光村図書は語彙力を高め、豊かな感性と思考力が養えるよう、教科書の構成や内容が工夫されています。社会生活で必要とされる国語の力がバランスよく身に付けられるよう工夫されており、3年間を見通して積み重ねができるようになっています。一人一人が持続可能な社会の創り手となるよう、現代的な諸課題を扱う教材を取り入れており、課題を見つけて考える活動を設けることで社会の担い手として必要な資質能力が育成出来るよう工夫されています。以上の点から、「学習要領の目標で示された資質・能力の育成ができること」、「あいち教育ビジョン2025の『基本的な取り組みの方向』を踏まえて『生きる力』を育む学校教育に資する特色を見ることができること」という選定の基準を満たすものと思われる。また、内容面・使用面においても、文学的文章、説明的文章、古典とどの分野においても学習目標やねらいに沿った教材がバランスよく選択されており身に付けさせたい『力』が明確です。言語活動を通して思考

力・判断力・表現力等が育めるよう工夫されており、実生活や将来に生きる情報活用の方法を学ぶことが出来る多様な教材が選択されています。各教材が系統的、段階的に位置付けられており、習得と活用を繰り返しながら目指す資質・能力が高まるよう工夫されています。QRコンテンツが充実し、補充的な内容を中心に個別最適な学びに応えられるよう工夫されています。全領域に『学びのカギ』が設置されているため、学びのつながりを明確に示し、見通しをもって学習に取り組むことが出来る構成となっています。3領域1事項の教材が3年間を通じて、教材数や時期に配慮されたうえで、系統性が意識出来るよう工夫して配列されています。新出漢字の学習だけでなく、短歌や俳句、季節を表す伝統的な言葉や『語彙ブック』により、日常生活で使える言葉を増やせるよう工夫されています。『学びへの扉』では、学習の流れの中で身につける資質・能力が焦点化されており、『学習のカギ』では、さらに要点を図解することで分かりやすくなるように工夫されています。巻末には『ITC活用のヒント』がまとめられており、学習の参考資料が閲覧できる教材やITCを活用すると効果的な学習場面が一目でわかるようになっています。以上の点からも光村図書が相応しいと思います。また、実生活を意識した例示や、SDGsに関連した課題等、多様な文字文化に目を向けることができるよう工夫されている点も評価出来ます。

**大村委員：**書写について、教育出版は系統的・段階的な学習が進められるように教材の構成を配慮し、学習内容や手順を見開きで示して明確にすることで書写の知識や技能の定着が出来るよう編集されています。学習手順を明確に示したり随所に交流活動や気づきの書き込み欄を設けることで、主体的・対話的で深い学びが出来るよう工夫されています。生活の様々な場面での書写の活用法が具体的に示されており、学習した内容と実生活を結びつけるよう工夫されています。偉人の残した文字や地域の文字文化についてのコラムがあり、学習に対する意欲を高めることができるよう工夫されています。以上の点から、「学習要領の目標で示された資質・能力の育成ができること」、「あいち教育ビジョン2025の『基本的な取り組みの方向』を踏まえて『生きる力』を育む学校教育に資する特色を見ることが出来ること」という選定の基準を満たすものと思います。また、内容面・使用面においても、どの学年においても、学習後の学びを生かした活動が提示されています。運筆方法への理解をより深めるために教科書と毛筆動画などのデジタルコンテンツがリンクされています。学習の進め方が明確に示され、学習課題や習熟度に合わせた効果的な書き方を自分で考えて実習することが出来ます。また、自分の学びを振り返る内容が設定されています。「試し書き」があることで、学習目標と照らし合わせて自らの課題を設定しやすくしています。「学習を生かして書く」「学校生活に生かして書く」では、習得した書写の力を教科書横断的な学習活動や日常生活に活用できる例が多種挙げられています。半紙形の紙面が教材文字のみで示されており、作品の余白感覚を養うことが出来ます。穂先の動きと学習のポイントが併記されており、練習の途中に見返しながら学習を進めることが出来ます。毛筆教材の運筆動画を閲覧できる「二次元のコード」が各所に配置され、運筆のリズムや字形のとり方を確認することが出来ます。以上の点からも教育出版が相応しいと思います。またAB版のワイドな紙面のため持ち運びには若干嵩張り重さもあるが、毛筆作品の全体のバランスを見据えた実習が出来る仕様です。

**江口委員：**社会（地理）について、東京書籍は、「学習課題」「チェック&トライ」というように学習するように編集され、「地理のミカタ」「みんなのチャレンジ」などの特設コーナーを設置し、学びを実現するように編集されているのがいいと思います。世界の諸地域について、異文化の理解を深めるように工夫されています。日本の伝統文化に関する題材が、いろいろ取り上げられていいと思います。「もっと知りたい！」では、その土地に暮らす人へのインタビューなど、その土地の生活・文化を身近に感じるように編集されています。「スキルアップ」では、図解で丁寧に解説されていると思います。日本の諸地域では、分かりやすく解説され、歴史的：公民的分野へと繋がる部分も明示されていると思います。教育出版は、SDGsに関する内容や領土をめぐる問題などの社会の変化に対応したテーマが考察するように掲載されています。「Look！」で課題が掲示され、「クロスロード」で社会に関する学習を設定し、「TRY！」で発展的な学習になるように工夫されていると思います。帝国書院は、日本の諸地域では、「写真で眺める」で写真を掲載して学ぶ事ができるように工夫されています。日本の諸地域では、グローバル化や少子高齢

化等今日の問題に関心を持てるように工夫され、「未来に向けて」課題が示され、持続可能な社会の実現を目指した内容が取り上げられています。日本文教出版は、「課題設定」「追究」「まとめ」「振り返り」のような順で編集されて、学習しやすいのではないかと思います。伝統文化の現状、それを継承するような取り組みを紹介し、ふるさとを愛する心を育む事が出来るように工夫されているのいいと思います。よって、どの出版社もそれぞれ特徴があるのですが、東京書籍がよいと思います。

社会（歴史）について、東京書籍は、各見開きページに「学習課題」「チェック」「トライ」が設立され、学習に取り組むやすい構成になっていると思われます。いろいろな分野をまたがる共通の資料を扱い、関連分野を示す印を付与するなど、関連が分かりやすく示されています。現代の諸問題を捉え、全体的に社会の変化に対応した内容が選択されていると思われます。教育出版は、地域の歴史を調べる学習が充実し、郷土や伝統・文化に対する関心を高めるよう工夫されているのいいと思います。「歴史にアプローチ」では、歴史の見方、考え方が紹介されるよう編集されています。帝国書院は、「学習の見通し」と「振り返り」といった単元構成になっています。時代を表す資料が大きく掲載され、時代を概観する工夫がされていいと思います。山川出版社は、世界の歴史に関する資料が充実し、日本の伝統文化だけでなく、他国や様々な人々に対する理解と意識を養うように配慮されていていいと思います。日本文教出版は、学習の見通しの為に、写真、絵画資料を多く用いて、視覚的に理解するように工夫されています。「先人に学ぶ」「地域に学ぶ」などのコラムではSDGsに関するテーマについてマークがされており歴史の教科書なのに今時だと思いました。育鵬社は、「歴史絵巻」により、その時代の流れを理解することができ、学習の見通しが持てるように編集されています。日本の伝統文化や世界史に関する内容を充実させ、日本や国際社会への理解を深めるように編集されていると思います。よって、どの出版社もそれぞれ特徴があるのですが、東京書籍がよいと思います。

社会（公民）について、東京書籍は、社会的な見方、考え方を働かせる学習課題を通して、深い学びを実現するように構成されています。「もっと知りたい」で補充的な学習、「みんなでチャレンジ」で発展的な学習を進めるように工夫されていていいと思います。教育出版は、各節で設けられている「問い」を社会的な見方：考え方を働かせながら追究するように構成されています。「公民の窓」「Look」などを通して、学習と実生活との繋がりを考えるように配慮されています。帝国書院は、「アクティブ公民」といった話し合い活動のテーマが設定され社会参画に対する意識を高めようとして、実社会への場面に置き換え、理解できるように配慮されていていいと思います。日本文教出版は、現代の諸問題を自分事として捉え、よりよい社会と豊かな人生の創造に向けて、主体的に社会参画するように編集されています。学習課題の解決を通して、深い学びを実現するように工夫されていると思われます。育鵬社は、現代社会の理想と現実が対比された教材を用い、社会的な考え方を働かせながら考察力を養うような内容が用いられていていいと思います。以上の内容から、東京書籍がよいと思います。

地図について、東京書籍は、日本の領土問題について写真や記述が掲載されており、日本の領域に関する理解が深められるように構成されていていいと思います。写真やイラストが取り入れられており、地域の特色が把握出来るよう工夫されていると思います。帝国書院は、竹島や尖閣諸島等の写真が掲載されて、領土問題について理解が深まるように編成されていると思われます。民族衣装や住居、食事などの写真やイラストが多く用いられ、それぞれの国や地域の特徴を表しているのいいと思います。以上の内容から、2社ですが、現在の領土問題等が取り上げられており、子どもたちに意識してもらえる構成となっている帝国書院がよいと思います。

**松本委員：**算数については、デジタル対応が進んでいること、二次元コードの数が増えていること、SDGsやキャリア教育に絡めた学習内容がどの教科書も豊富になっていると感じました。どの出版社もすばらしく、判断が難しかったです。教員の働き方改革を意識しているというのがあり、二次元コードでドリルのコンテンツを取り出せるような教科書もありました。教員の教材づくりのお手伝いを教科書がするような形になっていると思いました。デジタル教科書を使用することで、知覚障害者や漢字にすべてルビが振られていたり、多言語対応ができるとあり、実現で

きたらすばらしいと思います。デジタル教科書を、タブレットにダウンロードするのが難しいと聞いています。できたらよいと思います。数学といっても、自分の生活に繋げるという内容が多かったと思います。啓林館が特によかったのは、紙が軽く、書きやすい紙質であると思うのと、練習問題が豊富だと思います。算数から数学、数学1年から3年生までの流れがすごく分かりやすく取り入れられていると思うし、学習内容の見通しが立てやすい構成になっていると感じました。以上より、啓林館がよいと思います。

**押谷委員**：理科についてですが、教科書はまず印刷・造本が重要だと思います。印刷が鮮明で明るく見やすく、耐久面に優れていることが必要です。内容では、章の始めと終わりに学習前のわたし、後のわたしを設定することで、探求につながる、思考させる内容であるのでよいと思います。理科室の応急処置等でルールや安全面で配慮されていると思います。以上より、教育出版でよいと思います。

**松本委員**：音楽については、2社の選択でしたので比較しやすかったです。教育出版は、コンピュータで音を造るというのがあって、今時で4年前はなかったと思います。デジタルを使用して音を造るというのは、生徒はおもしろそうと思うのではないかと思います。自分の意見や感じたことを書くスペースがたくさんあったので、教育出版がよいと思います。教育技術もよいのですが、少し説明が多くて、読むのが大変なページが多いと感じました。その点、教育出版は内容が精査されており、すごくシンプルで分かりやすいと感じたのでよいと思いました。

**大村委員**：美術について、日本文教出版は、題材ごとに育成すべき3つの資質・能力に基づいた「学びの目標」が設定され、それを基に考える視点が具体的に示され、主体的に見通しをもって学習できるように編集されています。伝統的な言語文化や実生活に必要な言語文化に関する題材が、発達段階に考慮して系統的に配置され、表現や鑑賞活動を通して言語感覚を養い、伝え合う力が高まるように編集されています。身近な地域・社会とつながる活動や生きることの価値を考える題材が掲載され、人との触れ合いや共生への意識を高めたり、自他の生命を尊ぶ人間性を育んだりする事ができるように工夫されています。外国の生徒や作家作品、アール・ブリュット作品等が教科書全体に記載され、多様性を尊重しながら学ぶことが出来るように編集されています。以上の点から、「学習要領の目標で示された資質・能力の育成ができること」、「あいち教育ビジョン2025の『基本的な取り組みの方向』を踏まえて『生きる力』を育む学校教育に資する特色を見ることが出来ること」という選定の基準を満たすものと思います。また、内容面・使用面においても、社会の問題や地域文化をはじめ、他分野の著名人の言葉も取り上げられており、美術科の学習が日常生活や社会と繋がっていることが示されています。社会科や数学科、道徳科等と関連した題材が掲載されており、制作家庭を経て他教科との学びが関連付けられるように配慮されています。題材全般において、基礎・基本的な技法や身近な材料等を扱う内容が重視されており、一般的な施設や設備で学習に取り組むことが出来るように配慮されています。地域の伝統文化やアートイベントや美術館の紹介等、生活や社会に結びついた事例が掲載されており、授業以外にも主体的に学べるように配慮されています。3年間の発達段階に考慮し表現と鑑賞の関連を重視した構成で、社会的な視点で学ぶ事が出来る系統かつ多様な題材の配列となっています。全ての題材に「鑑賞の入り口」「学びのはじめに」が掲載されており、参考作品を掲載し制作に対する意欲づけや完成までのイメージがもちやすいように工夫されています。図版や生徒作品に説明文や作者の言葉を添えて掲載するとともに、題材ごとの造形的な見方や考え方を提示することで効果的に鑑賞出来るように工夫されています。題材冒頭に「学びの目標」や学習課題が示されており、二次元のコードの動画を視聴することで題材全体の見通しをもって学習できるように配慮されています。3年間の学びについて巻頭で取り上げられており、折り込みページによる大型図版の掲載で作品の質感や特徴が伝わりやすいように工夫されています。当該ページ欄外に道徳との関連が示されており、巻末には「学びを支える資料」として、制作に役立つ技法や素材の紹介が掲載されており、活用しやすいように構成されています。以上の点からも日本文教出版が相応しいと思います。印刷が鮮明で色彩が豊かで色覚特性のある生徒にも読みやすいようカラーユニバ

ーサルデザインが用いられている点や、表紙の防水コーティング、開きやすい糊付け、現行教科書よりも軽量化されている点も評価できます。

**押谷委員**：技術については、東京書籍がよいと思います。まず、教科書の印刷・造本は良好だと思います。内容では、愛知の教育理念と関連して、文化を高めること、イノベーションを考えさせて、それに向かって系統立てて実施する内容になっているのがよいと思います。

**松本委員**：家庭科については、3社ですがどれもすばらしいと思います。教育図書は少し重いのがデメリットかと思います。家庭科は実際の生活と密着している教科なので、内容が盛りだくさんでありました。家庭科を身近なものとして捉えるような工夫がどの出版社もしていて、実物大の写真が多く取り入れられていました。SDGsとの関連もたくさん取り上げられていました。東京書籍は、小学校との繋がりや系統が分かりやすく盛り込まれていたため、学習がスムーズにいくと感じました。教育図書は、シールがあって、そのシールがおもしろいと思いました。全体的には東京書籍がよいと思います。

**押谷委員**：保健体育については、まず、教科書の印刷・造本は良好だと思います。内容では、SDGsや医療機関の示し方、現実に応じた内容が記載されている。優秀なのは、使用面の見開き1ページでページの左半分と右半分とレイアウトがしっかりしているので、使いやすいかと思います。

**三須委員**：外国語については、すべての教科書でコミュニケーションを図ろうとする態度を育成できるように編集されていました。特に、東京書籍のNEW HORIZONは、日常生活でも使える道案内や買い物でのやり取り、機内放送など場面や状況に応じた題材が段階的に合わせて選択されていたり、イラストや写真が活用されていて見やすく読みやすかったと思います。

道徳については、教科書ごとに学ぶためのキーワードがあり、それぞれのテーマごとにまとめられていました。特に、日本文教出版は、問題解決的な学習に4つのステップが採用されており、主体的・対話的で深い学びにつながるように配慮されていました。また、ESD・SDGsの理念を参考に子供達がグローバルな視野を持ち、他者への共感を高め、興味や関心をもって学習できる内容だったと思います。

**教育長**：以上、全ての中学校の教科書についてご意見をいただきました。小学校の教科書については、お手元の一覧表のとおり、それぞれの出版社に選択させていただきたいと思いますがいかがでしょうか。第30号議案「令和7年度使用教科用図書の採択について」は、異議ございませんか。

**全委員**：異議なし。

**教育長**：第30号議案「令和7年度使用教科用図書の採択について」は、承認します。ありがとうございました。

**事務局**：ご審議ありがとうございました。お手元の一覧表のとおり、採択させていただきます。

「小学校用教科用図書」については本年度、採択替えはありません。義務教育諸学校の教科用図書の無償措置に関する法律施行令（第15条）により、来年度も、お手元の一覧表のとおり、本年度と同じ出版社の教科書を使用していくこととなりますので、ご了承いただきますようお願いいたします。

今後の日程について確認させていただきたいと思います。

本日、採択していただいた内容を、尾張西部教科用図書採択地区協議会の事務局へ8月9日までに報告し、事務局から愛知県教育委員会へ8月20日までに結果を報告します。愛知県教育委員会では9月上旬に教育委員会会議を開き、この結果が報告され、文部科学省へ採択の結果及び需要数の報告をし、来年度に向けて準備が整うという形となります。

9月上旬には、愛知県教育委員会義務教育課ホームページで、令和7年度使用教科用図書の採択結果、教科用図書選定審議会委員名簿、会議録、選定資料が公表されます。

なお、採択した内容は、令和6年8月31日(土)まで非公開とし、9月1日(日)以降は公開とします。よろしくご配慮お願いいたします。

会議録記載事項は、上記のとおり承認し、ここに署名いたします。

令和6年8月19日

岩倉市教育委員会教育長

岩倉市教育委員

岩倉市教育委員

作成した職員

学校教育課主幹